



特集 安倍改憲に勝つ

市民のチカラを引き出す選挙

西郷南海子

路上から生まれた「野党は共闘！」 そこから市民連合へ

2015年夏、国会前の路上ではとにかく野党が協力してやってほしいとの思いから「野党は共闘！」というコールが生まれました。安保法制成立阻止のために国会内で野党は共闘してほしいというのが国会前に集まったシールズを始めとする市民たちの思いでした。そしてそこから、「野党共闘」を市民の力でなんとか実現させようとする市民連合が2015年12月に発足し、私も参加しました。市民連合は2016年夏の参院選挙で当時の4野党と協力確認をしましたが、野党に対して「協力してください」という要望書を渡し、野党各党側から「要望を聞きました」というサインをもらったということでした。そこでは野党党首がそろって市民と同じ場にいるといういままでない場面をつくることに成功しました。この参院選挙では32の1人区で野党の候補者調整が行なわれ、11の選挙区で勝利する

ことができました。前回の参院選では2勝しかできなかったことから考えるとすごいことだと思えます。しかし複数区を含め全体では与党に3分の2を許す結果となっていました。

2017年の衆院選挙は選挙直前に小池百合子さんが立ち上げた希望の党に民進党が合流したのですが、希望の党に合流しなかった候補者たちが「枝野立て！」の声のもと、立憲民主党を立ち上げるといふ大混乱がありました。このときは立憲に風がふいて、若手議員たちも多く誕生しました。ところが選挙協力の結果、小選挙区で候補を立てなかった共産党が比例区でも票を減らし、議席を半減させてしまいました。小選挙区で活動しないと比例の票が積み上がらないという結果は今後にしこりを残したと思っと思っています。野党共闘のために小選挙区と比例区の使い分けができることよいためですが、一般の有権者でそこまで考えられる人は少ないと思います。このとき京都6区では自民の安藤裕さんと希望（当時）の山井

和則さん、共産党の上條亮一さんの争いでした。山井さんは前回、民主党公認で僅差で勝っています。今回、山井さんは1500票差で敗れました。山井さんが希望から出たことで、応援する市民が離れてしまったからです。共産党の上條さんが勝てないことはわかっているのだから、市民が山井さんの応援に入ってなんとかして1500票を積み上げたら、勝てたかもしれない。こういうもったいないことの積み重ねが全国で起こって与党に3分の2取られているんです。全部一致する候補でなくとも、候補者のなかでより勝てる候補という苦しい選択をしなければならぬ時もあることを考えなくてはならないと思います。

京都府知事選挙

私が関わった昨年春の府知事選挙の革新系・福山和人候補（得票率44%）の話です。まず、立候補の記者会見を福山さん一人でやってもらいました。組織が前面にでると「共産党の候補」と見られてしまう、それを避けるためと一緒にやる人はだれでもウエルカムという姿勢を見せるためでした。また、これまでの府知事選挙を担ってきた「民主府政の会」を「つなぐ京都」という名前に登録し直し新団体としてアピールしました。これによって立憲民主党の支

持者が入ってこられるようになりました。「つなぐ京都」の発足記者会見では（写真のとおり）子どもがたくさん写っています。これに対して相手陣営（西脇候補）の写真は黒いスーツを着た男性ばかりが写っています。この男性たちは私たちの代表でしょうか？ ここには、女性、子ども、若者、障がい者、お年寄り、つまり、居るはずの人がいない。一方「つなぐ京都」ではブランドもカラフルにし、政治はだれのものかを見えるようにしました。この選挙で成功したものの一つが「カフェビラ」です。喫茶店の広告チラシにもみえるようなおしゃれなデザインで福山候補が女性をカ

2018年春、京都府知事選挙

・これまでの府知事選挙を担ってきた「民主府政の会」を、「つなぐ京都」に登録し直し、新団体として出発。
・そのことによって、これまで入ってこれなかった人たちが参加できるように！



西郷南海子さんの講演資料より

フェで話しているデザインです。これまでの正面に候補者の顔と名前のチラシは渡すときに勇気がいるけれど、こんなおしゃれなチラシなら、スーパーのレジの人にも渡せるのです。そして、最初は「こんど選挙があるんです」とほかした言い方をしていたのですが、途中から「いま、私の友だちが選挙に出てるんで、ぜひこれ見てくださーい」というようにしました。「こんど選挙あるんです」では「こんどっていつ？ 選挙ってなに？」となってしまうけれど、「いま、私の友だちが」となれば、「友だちの友だちが選挙に出てるんだ」となり、自分のまわりのリアルな人に投票を促すことができるのです。

そこで大事なのは「私の友だち」といえる候補者、思いを託せる人をたてることです。選挙公報で、相手の西脇さんは「安心いきいき 京都力」というスローガンですが、福山さんは「①教育オール無償化、②時給1500円実現、③原発ゼロで」等々、具体的な中身で勝負、こんな社会にしたいというメッセージを伝えました。選挙の結果、福山候補は敗れましたが、無党派の過半数、立憲民主党支持者の（党は相手候補を支持していたのにも拘わらず）6割から得票しました。そして私の住んでいる左京区では福山候補が勝っています。

薔薇マークキャンペーン

今の若い世代は経済成長していた良い時代を知りません。自分の未来が見えないから結婚もしないし、未来に責任をもてないから子どももつけれない。こんな現状ですが、私は憲法13条が力を持っていると考えています。憲法13条「すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で最大の尊重を必要とする」、みんな幸せになっていいんだと憲法に書いてあるんです。よく憲法は水や空気にたとえられます。あるのがあたりまえ、ないと生きていけない。でも、空気や水だけでは生きていけないのです。社会が体だとしたら、血液（つまりお金）をまわさないと生きていけないのです。憲法という9条を守るうが焦点になるのですが、私は13条、25条の条文をどう暮らしに実現できるのかを語れることがカギになると考えています。

世論調査で政治に期待することとして「経済」や「雇用」が上位にあげられます。安倍首相を支持する理由のトップは「他に代わりの人がいないから」です。何において代わりの人がいないのでしょうか？それは経済政策です。野党のピラには経済の



3月16日の市民意見広告運動集会「安倍改憲に勝つ」で講演中の西郷南海子さん

字がありません。いま景気は、民主党政権下より「ちょこっと」良くなっています。たとえば高卒の就職率は改善しています。そのため、もとに戻りたくない人が安倍政権を支持しているのです。野党に経済政策に弱いことを直視してもらいたい、そういう考えから何人かの経済学者たちと薔薇マークキャンペーンを立ち上げました。教育や福祉に投資することは経済を底上げするという考えです。可哀想な人がいるから福祉で支えるというのではなく、奨学金をチャラにして返済にあてていた分でお金を使える、保育士の給料を上げたら買い物をする、そうやって社会全体を底上げする。この反緊縮政策は、アメリカではバーニー・サンダース、イギリスではジェレミー・コービンといった若者に支持されている政治家も言っていることです。金融緩和し、介護、医療、保育といった公的サービスにもっとお金を使い、雇用を増やします。

ここにある「市民の意見」171号の18ページでとりあげられている沖縄県知事選挙ですが、就職率の低い大学では佐喜真支持、高い大学では玉城支持だったということです。つまり、生活が苦しい人は政権側に寄りかかりたがるのです。野党は政権側に代わる経済ビジョンを示すことができないければ、勝つことはできません。経済学者の松尾匡さんは、人々は左派から右派へ横に一列にいたのでなく、その列をまげて逆のU字と考えて、上部のエスタブリッシュメントは緊縮財政を主張する中道リベラルを支持、下の部分は自由主義と長期不況の犠牲になった大衆の二本の足でそこが同じような反緊縮政策の急進左派と極右をそれぞれ支持するというかたちになっていると主張されています。

安倍首相が持つ最強カードは「消費税増税は延期する」と言えることです。4月、5月に決定すれば間に合うと言われています。もしそうなったら「安倍さんはやっぱり生活が苦しい人のことを分かっている」ということになります。そんななかで野党が同じように消費税増税延期を言っても政権交代という不安定さを有権者は選ばないでしょう。それなら野党は消費税5%を訴える固まりをつくりたい。消費税は法人税減税のためにある税なのでこれは可能で

す。そういう同じ経済政策を持つ議員、予定候補者に薔薇マーク（バラ撒く）認定をする活動を始めました。野党に本気の経済政策、来月の暮らしどうなるの？ という人に責任とれるような政策を作っているってほしいと思つて活動しています。

（さいごう・なみこ／1987年生まれ 3児の母。

安保法制下の自衛隊

踏み越える専守防衛

みなさん、こんにちは。

安全保障関連法が施行されて間もなく丸3年を迎えます。その後も特に自衛隊は変わっていないのでは、と思われている方もいらっしゃるかも知れません。しかしこれはたまたまこの間、アメリカが大きな戦争をしていないから、と考えた方が良いでしょう。なぜなら安保法制によって、限定つきとはいえ集団的自衛権の行使が可能になり、戦闘地域における米国など諸外国の軍隊に対する後方支援もできるようになった。自衛隊が危険にさらされる可能性は格段に高まっているのです。

2015年7月「安保法制に反対するママの会」をネット上に一人で立ち上げる。「だれの子どももころさせない」を合い言葉に、立ち上げて10日後には国会議員会館での記者会見、渋谷でのデモを実現させた。京都大学大学院教育学研究科・博士課程でジョン・デューイを研究中

*3月16日の市民意見広告運動集会「安倍改憲に勝つ」での講演をまとめたものです。

（まとめと文責・北原博子／市民意見広告運動事務局）

半田 滋

異次元の「18大綱」

2018年12月に「防衛計画の大綱」（以下、18大綱）と「中期防衛力整備計画」が閣議決定されました。「大綱」とは日本防衛の指針で、1976年以来、ソ連の崩壊、湾岸戦争、米同時多発テロ、イラク戦争、北朝鮮の核実験など、変化する国際情勢を背景に過去42年間に5回改訂されています。今年4月から施行される18大綱では「我が国は、これまでに直面したことのない安全保障環境の中でも、国民の生命・身体・財産・領土・領海・領空及び主権・独立を守り抜くといっ

た、国家安全保障会議に示した国益を守つていかなければならない」と、過去一度もなかった「国益」という言葉を本文に登場させたのが一つの特徴です。

18大綱は、第2次安倍政権が「向こう10年を見通して策定」したはずの2013年の大綱からわずか5年後に改訂されました。2016年の安全保障関連法の施行を受け、先行した現実に大綱を合わせた形です。そのキャッチフレーズは「多次元統合防衛力」。何を言っているのか、良くわかりませんね。はっきり言うところには、日本国憲法は無いに等しい事実上の専守防衛の放棄と強力な日米一体化です。

18年10月の自衛隊閲覧式で安部首相は「宇宙、サイバー、電磁波といった新しい分野で競争優位を確立できなければ、これからのこの国を守り抜くことはできない」と訓示しました。これを私は甘いあんパンを装った激辛カレーパンの登場と思つています。甘いあんパンとは、ウクライナ内戦の際、わずか1万5千人のロシア軍が電磁波・サイバー攻撃で5万人のウクライナ軍を打ち破り「涙が出るくらいロシアは強い」と米軍将校が感嘆、その後特に電磁波・サイバー分野の開発に比重を移した米軍に做った対応。そして激辛カレーパンとは、対潜ヘリコプター搭載護衛艦「いづも」を